

## 第7章

### 痛くないのに危険？シャルコー足を知ろう

糖尿病患者のシャルコー足、糖尿病性変形性関節症としても知られている、それは彼らがインスリン依存または非インスリン依存であるかどうか、糖尿病患者の間で珍しいことではありません。この症状は、糖尿病患者の足で非常によく誤診され、不適切に扱われます。皮膚温が上昇し、足が赤く腫れるのは、しばしば感染症と間違われる（図 7-1）。



図 7-1



図 7-2

糖尿病のシャルコー足は、痛みが少なく、進行性で、足の骨や関節、特に足のアーチの部分の大規模な破壊のものです。足の構造の大規模な破壊のために、シャルコー糖尿病足は悪性の骨腫瘍に似ています。外観は急性骨感染症にも似ていますが、検査データと足の X 線写真（図 7-2）や MRI を用いることで正確な診断が可能です。足の形がどんどん変化していくにもかかわらず痛みを感じないため、珍しい足の形ができるまで診断や治療を遅らせることができます。（図 7-3）。



図 7-3



図 7-4



図 7-5

足のアーチは完全に消失し、扁平になり体重を支え始める。アーチの下に大きな皮膚の潰瘍（図 7-4）ができ、骨への感染や最終的には切断の恐れがあり、さらに問題を複雑化させる。

シャルコー糖尿病足の原因として考えられるのは、主に神経障害と外傷です。自律神経系（第2章参照）は、足の血流をコントロールする役割を担っています。自律神経失調症は足の骨への血流を増加させ、骨から物質を取り除いて骨を弱らせます。弱くなった足の骨に体重やストレスがかかると、次第に足の骨や関節が破壊されていきます。骨や関節の破壊による痛みを感じなくなるのは、感覚神経障害（第2章参照）のためで、痛みを自覚しないまま破壊が進みます。シャルコー足の糖尿病患者は、足が完全に変形するまで歩き続けます。この破壊的な病気の過程はやがて止まり、治りますが、完全に変形した足の形は元には戻りません。（図 7-5）。

足の腫れ、発赤、皮膚温の上昇に気づいたら、速やかに足科医の診察を受けることが重要です。このような場合は、医師による正確な診断がつくまで、すぐに松葉杖を使用して足に体重をかけないようにしてください。骨の感染症の可能性を排除することが必須であり、患者は患部の足に完全に体重をかけない松葉杖を使用して治療する必要があります。松葉杖や安静が適応となる場合があります。CROW ブーツの使用が適応されるかもしれません。感染症の診断と治療を怠ると、結果的に脚の切断に至ることもあり、患者さんにとって大きな負担となります。炎症が治まり、この疾患の破壊的な段階が完了するまで、患部の足に体重をかけないことが絶対条件です。

## 自分自身を試す

(T F) 真偽の程は不明

1. T F 糖尿病性シャルコー足がインスリン依存性糖尿病患者にのみ発生する。
2. T F 熱い、腫れる、赤い足は、感染症やシャルコー足である可能性があります。
3. T F 土踏まずの下に大きな潰瘍ができるのはシャルコー足でよく見られる。
4. T F 扁平足の人、シャルコー足ができやすい。
5. T F A シャルコー足とは、足の骨や関節の破壊がゆっくりと進行し、痛みを伴わないものをいう。
6. T F A シャルコー足とは、切断の原因となることが多い足です。
7. T F 糖尿病性シャルコー足の T F 治療は、患部の足に体重をかけない。

---

1. (F) 2. (T) 3. (T) 4. (F) 5. (F) 6. (F) 7. (F)